

菅原寛孝 学長特別顧問(ディスティンクティヴプロフェッサー)

業績概要

菅原氏は、同氏は素粒子物理学の理論的研究を専門とし、素粒子物理学の広い範囲にわたって優れた業績を残してきた。

弱い相互作用の対称性に関する研究において「リー・菅原の関係式」と呼ばれる関係式の発見し、昭和46年12月6日、仁科記念賞を受賞した。また昭和43年に発表した「カレントの場の理論」は、「菅原形式」とも呼ばれ、平成8年3月25日、東レ科学技術賞を受賞した。

平成11年4月29日には、紫綬褒章を受章。同氏は、上記理論物理学者としての業績にとどまらず、特に高エネルギー物理学研究所長となって以降は、Bファクトリー計画実現のために、所長として多大な努力を傾注し、また、高エネルギー加速器研究機構と岐阜県神岡町のスーパーカミオカンデを結ぶ長基線ニュートリノ振動実験は、同氏の強力な指導の下に実現したものである。さらに、高エネルギー加速器研究機構と日本原子力研究開発機構との共同プロジェクトであるJ-PARCの立ち上げを導いた。

同氏は、平成16年の国立大学法人化とともに総合研究大学院大学の経営・運用担当理事に就任して以来、その全在任期間を通じて大学運営の要である運営会議の議長を努めたほか、同大学葉山高等研究センター長として、異分野間の学問の融合を目的とした三つのプロジェクト「人間生命科舎学」「物理を基盤とする生命科学」「人間と科学」を立ち上げ、自らも中心的な研究者として活躍した。

同氏は、平成20年5月から平成24年3月まで独立行政法人日本学術振興会ワシントン研究連絡センターのセンター長を務め、我が国の科学技術政策の国際化に寄与するとともに、日米の研究交流を促進した。

同氏は、平成24年4月から、沖縄科学技術大学院大学の学長特別顧問(デイスティングィッシュトプロフェッサー)となり、現在、イノベーション創出に向けた取組を推進し、政府や他の大学との密接な関係やネットワークの構築を進めている。